

1/3(土) まいど、倫理号です。新年明けにはおめでたのぞきです。  
今年も倫理号宜しく！先を見ずには来世を見つめ、ゴミ掃除から始め、  
互に失の事を見つめ、目標を定め、皆で頑張ります。

今週の倫理 906号 1月版の一句です 2015.1.3~1.9

今年こそタグボートが受け止まる

一月のテーマ

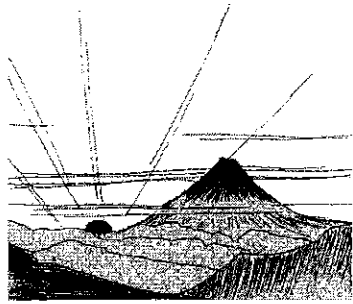
先を見る目

# アジア丸の タグボート

幸いながら

丸山竹秋

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所会長・丸山竹秋（一九二二・一九九九）のこゝとばを掲載します。



え・古屋智子

**あ** なたは先を見ることが、どのくらいできるのか。先を見なければ、計画も企画もできない。しかし実はこれがなかなかむつかしい時が多い。見ることができないこともある。よく見える時もある。だが、それでおもしろいのだ。見えなくて。ビシヤンとたかかれ、泣きたくなることもある。だがそれが、よいのである。ただ泣いているだけでは、意味がないではないか。

先のこととは、時間的、空間的にいえる。いつ、どこで、である。

大切なのは、先のことばかりではない。もつとも重大なのは、今どうすべきか、である。これをはつきりさせてこそ、いのちをみなぎらせることができる。そのため先のことを想い、目標をはつきりさせるのである。目標がなければ、歩けないではないか。

先を見るその目安は、つぎのことからである。  
第一、地球全体の安泰健全発展を地球人すべて、もつとも真剣に考えること。理由、地球の生態系

が破壊され、大気、山、海が異常化されると、人類も生存できなくなる。人類が生存できなくなると同時に人類の文化も破滅し、学問、芸術、政治、経済など無に帰する。

このことは世界の大きな問題となり、いろいろと述べられているが、なかなかひろく徹底自覚されていない。一般の人々は、その日の生活に追われ、目前の利益の追求に汲々としている。そして人類は生物中もつとも愚かな自殺集団動物に化しつつあるのではないか。

まず政治家、企業家のリーダーたち、知識人と自ら思っている人たちその他から、すすんでまずゴミの清掃から始め、ひろく世間を啓蒙すべきである。これは人間としての重大事である。まわりをきれいにすることは心を浄めることである。精神の修練である。馬鹿にしてはいけない。

第二、地域的にはアジア全体に目をそそいでその将来を思うべきである。やがて二十一世紀には、アジアは世界中でもつとも活気あ

ふれる地帯となるであろう。人口的、経済的、産業的に世界中でアジアを凌駕することはむつかしくなる。とくに中国は華僑、華人を含めて目ざましく発展する。アジアのパワーはアメリカに迫いつきヨーロッパを追い越し、世界中のもつとも重要な部門を背負うようになるであろう。この事実を見逃して、ボンヤリと眠りこけているようではいけない。

第三、このような偉大なアジアという巨船に対して、日本はそのタグボートの役割を背負うべきである。

アジアという大巨船(アジア丸)はいかに共栄繁栄し、いかに地球全体の健全発展に貢献すべきか。日本は世界中の港への曳き船、押し船であるべきだ。これはもちろん難問である。アジアのリーダーなどと威張ってはいけない。日本人は、もつと自国の文化を充実させ、その品格品位を高めつつ、まずアジアの諸民族に尽くすべきである。

(月刊「新世」一九九六年二月号より)

徳をしようとして  
その上から